

山形県連小会報

第146号

発行日 平成28年10月1日

発行者 山形県連合小学校長会

田中利幸

山形市木の実町12-37

県教育会館(大手門パルス)

県連小 第2回理事会報告

県連小の現況と国・県の施策について

会長のあいさつ

1 感謝とお礼

6月10日に開催されました「第70回県連小研究協議会」へのご協力ありがとうございました。田勢康弘先生の、国際社会に生きる子どもを育てる視点についてユーモアを交えながらの示唆に富むご講演。各分科会では実践に基づいた提言に対して熱心な討議が行われ、充実した研究協議会となりました。周到的な準備ときめ細かな運営をしていただきました西置賜地区校長会の方々に、心より感謝申し上げます。提言発表を大事にした分科会の進め方や総括の仕方、事務作業を軽減するホームページの活用など、来年度開催の「東北連小研究協議会山形大会」につながるものと考えます。

また、7月7日、8日の「東北連小研究協議会岩手大会」に参加された先生方、お疲れ様でした。この大会において発表されました米沢地区校長会、東置賜地区校長会の方々に感謝申し上げます。

2 県連小の現況について

① 専門委員会活動の充実

「喫緊の課題への組織的な対応力」と「発信する県連小」を目指して組織改編が行われて2年目になりますが、対策委員会、研修委員会、生徒指導委員会の3つの専門委員会は、委員の皆様のおかげで、年度当初の計画どおりに充実した取組が行われているとかがっております。後ほど、担当幹事や担当理事の方々からの報告をお願いします。

② 東北連小研究協議会山形大会に向けて

山形地区、東村山地区、上山地区が主管地区となる来年度開催の東北連小山形大会に向けても、順調に準備が進んでおります。6月23日に今年度新メンバーによる「第7回事務局会」を開催しました。また7月28日には各部の代表者による「打合せ」を開催し、東北連小研究協議会岩手大会の視察や講師の冨田 勝氏との打ち合わせについて



報告し合い、細部の調整と今後の課題を確認しました。さらに9月20日には担当する三つの地区の校長先生方が一堂に会して、

実際に全体会場や分科会場を視察しての進捗状況の確認と課題の共有を目的とする会を計画しております。後ほど「県実行委員会」で報告や提案がありますので、よろしくお願いします。

3 東北連小の動きと対応について

7月6日の第2回理事会で、平成31年度に開催される全連小研究協議会秋田大会の提案がなされ、「H28～H34までの分科会構成と担当県についての報告」がありました。これについても後ほど報告がありますが、現在の段階で明らかになっている部分をもとに、県連小研究協議会の分科会構成について確認し、準備を進める必要があります。

4 全連小の動きと国・県の教育施策について

7月12日に全連小会長連絡協議会が開催され、全連小の組織・運営や教職員定数に関する要望活動についての報告、学習指導要領改訂に関する文科省からの情報提供がありました。三地区対策・調研連絡協議会や各県への調査の依頼について、各地区からの協力をお願いします。また、「新しい学習指導要領実施に備えた校長のカリキュラム・マネジメント」と題して上智大学 奈須正裕教授の講演がありました。資料を準備しましたのでご活用ください。

山形県の教育施策に関しては、教員採用やライフステージに応じた研修システム構築について、県教委・県内大学・小中高が連携する形で動き出しています。また、さんさんプランの評価の時期に当たり、有識者を交えてよりよい方向性を模索する会議が開催されています。

本日の理事会、どうぞよろしくお願いします。

報告

- 1 全連小第68回総会・研修会及び第233回理事会より
- 急速な教育改革に対して、学校本来の役割を自覚し、校長のリーダーシップを発揮する時である。教育における不易と流行をしっかりと見極め、校長としての使命を自覚し、将来への展望を持ち、理想の実現に邁進しなければならない。
 - 「何がどのように変わるか」だけでなく、「なぜ変わるのか、変わらなければならないのか」、さらには「何をめざしていくのか」をリーダーシップを発揮して教職員に指導していくことが望まれる。
 - 多様な課題に応じた指導体制を整備するなど、諸課題に対応できる「教員定数の改善」を要望していく。また、政令指定都市校長会の関係で会則改正を図ってゆきたい。
 - 馳文科大臣祝辞や浅田官房審議官講話の中に、全国学テへの過剰な取組みがあることや数値に踊らされず、教育のプロとして毅然と向かってほしい旨の発言があった。
- 2 東北連小第1・2回理事会、第1回教育課程委員会より
- 岩手大会の歩みが確認された。
 - 平成31年度的全連小秋田大会について、会員数の減による資金不足に伴い、予算について検討中である。大会協力金について、各県のご意見を伺いたい。(P3. ※各県持ち帰り協議となる)
 - 秋田大会での山形県の分科会研究発表は「評価・改善」と「学校安全」に割り当てられた。
 - 東北連小「事務便覧」には「理事会は大会前日に開

催」とあるが、実態に合わせて見直す必要があることが確認された。

3 県連小各専門委員会より (対策委員会)

- 小中合同対策委員会①5/9…経営懇談会への出席メンバーを32→16にする。
- 小中合同対策委員会②7/13…「重点6項目」に様々な要望あり。「お願い」を作成。
- 経営懇談会8/5…県教委幹部7名をお迎えし、現状を懇談。
- 「お願い」提出 9/9…県教育委員会教育長と市町村教育委員会協議会会長へ
(生徒指導委員会)
- 生徒指導委員会の原点に返っての活動を進めている。情報交換と課題の焦点化、そして取組へ。
- 小中合同研修8/9…小学校からのつながりが大きい。問題を引きずって来る場合も少なくない。また、安価な中古品の通信機器を購入し、SNSにつなぐという問題も浮上している。
(研修委員会)
- 県連小研究協議会(西置賜地区主管)に関して、運営についての事前確認や終了後の「成果」「課題」の確認を強化すること、主管地区・研修委員会・理事会それぞれが負う部分が曖昧な点が見られることなど、次回への課題としたい。
- 「研究紀要 第60集」…執筆依頼終了。地区代表としての原稿(10月末日まで提出)



地区校長会訪問

共に学び、高め合う校長会をめざして

東村山地区校長会

東村山地区校長会は、天童市12校、山辺町4校、中山町2校、合計18校をもって組織し、6教振基本目標「人間力に満ちあふれ、山形の未来をひらく人づくり」をめざして研修を重ねるとともに、校長会として主体性をもって諸事業に取り組んでいる。

年6回の定例会では、県連小の理事会や委員会からの報告のほか、県連小研究協議会発表に合わせて3部会を構成し、各学校の実践などを調査・分析し、発表に向けて計画的に研究に取り組んでいる。また、異業種から学ぶ機会をつくり事業所などの見学も行っている。今年度は6月に日東ベスト山形工場を訪問し、最先端の製造工程、品質向上や衛生管理を徹底した経営学について学ばせていただいた。

毎年8月には、地区小中校長・教頭合同研修会を行っている。今年度は、「第6次山形県教育振興計画をふまえた学校経営のあり方と校長・教頭の役割」(2年次)と題し、「いのち・心・体 部会」など4分科会に分かれて、各校の取り組みを紹介しながら意見を交換した。また、第二部では、ものづくりのエキスパートの方から講演していただく機会を設け、今年度は、県工業技術センター前所長の小関敏彦氏から「ふるさと山形」について、誇りと郷土愛を深める講話をいただいた。

そのほか、教育事務所からの指導や児童・生徒の教育振興を図る事業を計画し、各校長が揺るぎない信念のもと学校経営力を高められるよう、共に学んでいるところである。

中山町立長崎小学校 浦山 健一

○教育課程に関する情報交換…第2回・第3回で4地区から情報提供をいただく。

協議

1 第70回山形県連合小学校長会研究協議会（西置賜地区主管）の成果と課題について

〈成果〉

- ◆編集費の削減ができた。
- ◆講演会のまとめは各自に委ね、事務の簡素化を図った。
- ◆分科会提言（発表）を1つに絞り重点化した。
- ◆グループ討議で感想を含めた自己紹介は有効。
- 講演記録をとらないということで、講演者も話しやすかったと伺っている。
- 「さらに充実した協議会にしたい」という各地区校長会のまとめに感謝したい。

〈課題〉

- ◆「大会宣言文」は「大会趣旨文」との重複があり、今後検討・改善が必要ではないか。
- ◆事前提案の「研修委員会資料」と「理事会資料」は、それぞれの会の役割が違うことから、項目が違って当然であるが仕分けは必要である。項目によっては、

研修委で検討し、理事会に諮るべきものもあるはず。精査していくべき。

2 平成30年度第72回県連小研究協議会（最上地区主管）の大会要項及び進捗状況等について

○期日・場所 平成30年6月8日（金）

山形ビッグウイング

- 講師候補として3名を考えている。東北女性校長会の講師と重複している点などから、精査中である。
- 5分科会での協議を行う予定である。

3 平成31年度以降の分科会割り当てについて

- 第3回研修委員会（10/4）で原案を練り、11月第3回理事会に提案・協議する。
- 秋田大会の2つの分科会担当を、田川と飽海で相談して決めていくことで了承。

4 平成31年度全連小秋田大会の協力金について（※）

- 盛岡での理事会等の席で「1000円×2年→2000円×2年」のお願い提案があり、各県での持ち帰り協議となった。については各地区に持ち帰って話題にし、11月理事会で協議する。現段階では、各県で「1000円×2年」までは承諾するという考えでいる。

【平成28年度第2回東北連小山形大会実行委員会】より

- ◇大会期日 平成29年7月5日（水）～7日（金）
- ◇会場 全体会 山形テルサ
- 分科会 ホテルメトロポリタン（3）、
ホテルキャッスル（2）、国際
ホテル（5）
- ◇記念講演 7月6日（木）

◇演題「日本の未来は東北から～慶応鶴岡キャンパスの新・人材育成」

◇講師 富田 勝氏
（慶應義塾大学先端生命科学研究所所長・慶應義塾大学環境情報学部教授）



魅力ある、そして実のある校長会を目指して

東置賜地区校長会

本地区小学校長会は21名（南陽市7名、川西町8名、高島町6名）で組織され、結成以来、「一枚岩」の理念と積み重ねられてきた歴史・伝統に基づき、真摯な研究実践で「児童の豊かな人間性の育成」を目指してきた。そして今年度も学力の向上、生徒指導の充実をはじめ、いじめ・体罰の根絶、道德教育や環境教育、情報教育、国際化教育、地域の特性を生かした食育の推進、体力の向上と健康・安全の保持増進及び教育諸条件の整備、教職員の資質向上に関する問題など、今日的課題に主体的に取り組み、創意ある学校経営の研修・実践に努めている。

なかでも今年度の重点課題として、①学習指導要領及び第6次山形県教育振興計画の趣旨を踏まえた、児童の『社会を生き抜く力』を育成するための教育課程編成の工夫 ②教育諸条件並びに教職員の研修体制の整備・改善 ③人間尊重の精神を基本とする道德教育の充実と家庭・地域との密なる連携による、豊かな心の育成 ④東日本大震災における避難児童への支援の継続 そして⑤地区内学校の再編整備に伴う、本会組織機構や事業の継続検討、の5つを掲げ、貴重な情報交流の場、自主的な研修・研鑽の場としての会の充実を図ってきた。

今後も教育の不易を大切にしたい揺るぎない理念に基づく「学び続ける」校長会の運営で、すべての会員の拠り所となるような魅力ある、そして実のある校長会を目指していきたい。

高島町立二井宿小学校 金子研司

理事会研修より

テーマ

「全国学力・学力状況調査並びに
県学力調査への取組について」

話題提供 田川地区校長会 本田 淳

(鶴岡市立朝陽第一小学校)

探究型学習推進校として県学力調査(試行)を行った。

①実施してみた

- ・時間が予定していたものより多くかかる。
- ・総合型と合教科型との違いが感じられなかった。
- ・結果が送付されてきたのが3/30だった。年度内に活用したいと考えていたができなかった。もっと早く送付してもらいたかった。幸い、担任が4人とも持ち上がりだったので、年度初めの忙しい時期でもなんとか共通確認することができた。

②自校評価診断シートと単元評価シートについて

- ・分析することで児童の意識と生活状況、保護者の指導法の経過を把握できた。
- ・チェック項目がすべて網羅されているのでうまく活用できれば指導に生かせる。しかし、提出まで短時間だったため作成作業が難しく、作成後もどこから手を付けたらよいか戸惑いがあり、活かし方に時間がかかった。

③単元末評価シートについて

- ・児童のこれから付けたい力に沿った良問である。喜んで取り組む児童が多かった。児童の思考を鍛える応用問題としてもよい機会である。

〈各地区理事から〉

○北村山

- ・実施してみて同じような感想を持った。実施する意義として年度内に活かしたいと思っていたが、結果送付が遅かったので活用するまでにはいかなかった。校舎の移転作業もあったので、3月の早い時期に返してほしかった。
- ・問題が子どもにとって厳しかった。全国の問題はよく吟味されている。全国学テと同じような扱いはできない。問題の傾向に偏りがある。

○西置賜

- ・子どもたちに教師からの算数クイズのような形で取り組ませている。
- ・問題を読み込ませないといけない。読解でつまづいている子どもが見られる。
- ・評価問題として使うとすると授業が反映されているかを考えなければならない。問いをつないで学びのサイクルを作っているとか授業はこれでいいかという教師側の課題が出てくる。
- ・個票は、子どもの答案がコピーされているので結果が一目瞭然である。子どもに配付する前に直しを入れてやらないと下位層の子どもへのショックが大きい。また、ショックを受けた子どもへのケアをどのよう

にするか苦慮した。

○最上

- ・100分間の短時間ですべての子どもに同じように実施することは難しかった。
- ・結果が学校に届くのが遅かった。活用はあまりできなかった。(マスコミ発表より学校への発表が遅くなったのは疑問)

○山形

- ・テストで調べたいことは、学習指導要領のねらいの力が付いているかと探求型の学習のねらいが達成されているかということだと思うが、あの問題で測れるかは疑問がある。
- ・やりこなさなければならぬだけでいっぱいである。もっと教師の共通理解が必要。

○飽海

- ・酒田市教育委員会の委嘱研究が今年度3校で、算数のB問題を作って授業に活かすことがテーマである。

○東村山

- ・自校でも評価シートを作っている。授業で何をねらうのかはっきりさせてから行っている。研究校では毎時間の評価問題を作っている。
- ・カリキュラムマネジメントが重要。そのためには、教科を含めて、どんな力を付けたいかをはっきりさせなければならない。

○上山

- ・学力とは「学んだ力」と「学ぼうとする力」である。最近「学ぼうとする力」が足りないのではないかと感じている。学ぼうとする力を育むため、環境整備につとめている。
- ・学ぼうとする力が付けば点数は後から付いてくる。点数に踊らせられないということが大切。

○東置賜

- ・さんさんプランでなぜ学力が上がらないかと問われることがあるが、さんさんプランの趣旨は、楽しく学校に来ることや問題行動を少なくしていくということがねらいだったが、学力も上げていかなければならない。しかし数値に踊らされることがあってはならない。
- ・若手の育成とベテラン教員の指導観を変えていくことが必要である。

○西村山

- ・指導と評価が一体となっているか? 指導しなければ結果は出てこない。
- ・教師が問題を作れるか? なぜこのような問題が出されているかについて、分かるようにしていかなければならない。

